

白血病の名古屋市議

日比 健太郎氏（ひび



けんたろう
名古屋市議）

3日、急性白血病のため死

去、35歳。名古屋市長選挙区出身。自宅は名古屋市長選挙区よもぎ台2の508。通夜は5日午後6時、葬儀・告別式は6日午後0時半から名古屋市長選挙区猪子石2の804、葬儀会館ナゴヤ香流斎苑で。喪主は妻美咲（みさき）さん。

衆院議員秘書を経て、07年の市議選名東区選挙区で初当選。民進党所属で現在3期目。13年5月から1年間、教育子ども委員長を務めた。

35歳、復帰ならず

日比さんは九月九日に自身のフェイスブックで白血病を告白した。抗がん剤治療中の写真とともに、治療

経過や六月の長男誕生の喜びなどを記載。「がん患者となった経験を議員の仕事に生かし、多くの苦しむ人々のために取り組みたい」と復帰を望んでいたが、かなわなかった。

今年三月ごろから体の不調を感じ、五月に治療が難しい「急性混合性白血病」と診断された。名古屋市中村区の病院に入院して骨髓移植のドナー（提供者）を探し、四人と白血球の型が適合したが、いずれも移植に つながらなかった。九月下旬に臍帯（さいたい）血移植に切り替え、手術を受けた。日比さんの闘病については、十月二十一日の衆院厚生労働委員会で民進党の初鹿明博氏を取り上げ、移植の実現を後押しするため、ドナーが休暇を取りやすい制度創設などの必要性を訴えた。